

令和3年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和3年5月22日（土）14時から16時
- 開催場所 新木近隣センター
- 参加者 市民29名
- 出席者 星野市長、廣瀬総務部長、小林企画財政部長、隈市民生活部長、三澤健康福祉部長、柏木環境経済部長、南川建設部長、森都市部長
他管理職等11名

■懇談要旨

市 民：保育園、幼稚園などで充実している地区で、子育て支援拠点施設について、4施設の内2施設を私立保育園にするとのことです。補助金が出されたようですが、保育士不足の中で、私立保育園の職員は、どのように対応しているのでしょうか。

市 長：法が緩和されて、全てが保育士ではなくても良いということになりました。一定以内であれば、小学校の教諭、あるいは幼稚園の教諭でも良いという形になっています。今回の施設については、保育園の中や隣接した施設に保育士さんが一時的に異動したりしますが、スタッフは別にいるという事になります。天王台地区と布佐地区については、民間の保育園が子ども達を見ることとなりますが、湖北台保育園は、公立のまま子育て支援施設を併設する形となります。子育て支援施設の職員は、常に保育士さんではないということをご理解ください。

市 民：ワクチン接種について、一人暮らしの高齢者は、コールセンターに電話をしてもつながらなく、予約ができません。電話やネット予約のほかには何かよい方法は考えられないのでしょうか。

市 長：現在、我孫子市内で65歳以上の方は4万2千人いらっしゃいます。公平で確実な方法としては、現在行っているコールセンターとネットでの予約があります。往復ハガキですと、送って戻ってくるまでの郵送時間と最後に人の手で振り分けをしなければならなくなり、時間がかかります。それに既に予約が開始しており、これ以外の方法を検討すると、それだけまた時間がかかりますので、この方法が今一番良いと思います。ただ、今回、私が認識したことは、高齢者の方は電話が繋がらないと直ぐに電話を切ってしまうことです。もう少し待つとガイダンス内容が変わりつながるのに、電話を切ってしまうようです。あともう1点は、1回分の予約だけをして2回目の予約をしないで電話を切ってしまうということです。必ず2回分の予約をしてください。手続きができない方がいらっしゃいましたら、ぜひ、ご近所の方や知り合いの方もご協力していただきたいと思います。冷たいことを言うようになりますが、お一人の方でまだ予約をしていない人をフォローしていくのは、今後の課題であり、まずは多くの人に早く接種していただくには、この方法が良いと思いますので、

ご理解の程、よろしく申し上げます。

市 民：災害対策基本法について改正されましたが、2013年に各市町村において災害弱者名簿の作成により、個別名簿及び個別計画を作成することになっていますが、我孫子市の実態をお聞きしたいと思います。どのような状況でしょうか。

市民生活部長：災害対策基本法が4月20日に改正されまして、災害時の避難について、避難勧告と避難指示が一本化されました。質問の部分については、災害弱者の名簿は作成できておりますが、個別計画につきましては、策定の段階までには至っておりません。同意を得られている方は、3,000名おります。その方々の一人一人の個別計画を作成しなければならず、お一人ごとに、その方を支援する人を探し、避難経路まで作らなくてはなりません。担当課だけではなく、福祉関係とも連携していかなければならず、非常に時間がかかるものですので、ご理解いただきたいと思います。

市 民：移動車販売による買物支援が始まることに感謝いたします。お聞きしたいことですが、何処の地区でもあると思いますが、まちづくり協議会が高年齢になっています。出来ましたら、市内に住んでいる職員の方々に、まち協を支援していただけるような環境づくりをお願いしたいと思います。もう一点は、連休明けで資源ごみが多かった時に、空き缶を入れる麻袋が足りなくて、ビニール袋にまとめて入れて置いていたら、回収してくれませんでした。クリーンセンターに連絡したところ、「まだ不燃物の回収がされていないので、一緒に持って行ってくれると思います。」と言われたので、麻袋に入れ替えましたところ、持って行ってくれました。不燃物の担当者にはお礼を言いたいです。ただ、原則はわかりますが、連休明けという状況を判断していただき、臨機応変に対応していただきたく、良い面も悪い面もあったことでの報告をさせていただきます。

環境経済部長：委託業者はルールに乗っ取って行っていた部分があります。そのあとの対応は良かったとのことですので、今後、また何かありましたら、遠慮なくクリーンセンターにご連絡いただければと思います。

市民生活部長：私の方から担い手不足につきまして、お答えいたします。どの地区においてもそのような課題が出てきております。我々も、大変重く苦しい問題であると捉えております。市職員の支援環境については、具体的な方策は考えてはおりませんが、退職した職員に地域との関連などを、お話ししていけると思っております。また、担い手不足につきましては、地域性がありますので、会話を通して担い手の発掘や市としての支援もさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。

市長：現職の職員が対応するという事は、なかなか難しいと思います。とは言っても、家に帰れば地元の一住民です。私が記憶しているところでは、PTAや自治会役員、サッカーや野球を教えるなどの地域貢献をしています。地区社協など大きい組織は、退職された人がよいかと思いますので、声かけはしていきたいと思います。先ほどのゴミの件ですが、連休や年末年始には大量にゴミが出ます。臨機応変な対応については、本日、担当課長もきておりますので、分かったと思います。委託業者へは伝えさせます。

市民：若い世代の定住化と少子化対策についてです。若い人がどこに子育てを考えて、どこに住むのかという基準の中で、多くは学校や病院になると思います。我孫子市は小中一貫のもと、学校が少なくなるという事はどうなるのかということに住民とよく話をしてほしいと思います。我孫子市全体に関わることなので、学校を無くすことは反対です。市民の声を聞く機会を多くして、対話をしてください。

市長：このふれあい懇談会は、市長部局のタウンミーティングです。学校の在り方の中の教育カリキュラムについては、教育委員会が行っております。学校の設備や施設建設に関する予算については、市長部局になります。我孫子市では、既に分離型の小中一貫教育を行っています。我孫子市がスタートした後に、文科省も小中一貫教育の有効性を認識して、全国的に小中一貫教育を行う方針を打ち出しております。そのような中で、小学校の高学年には、専任科目教官制度を導入することも打ち出しております。それを行うとどうなるかと言うと中学校の先生が当分の間小学校にいかねばなりません。布佐小学校、布佐南小学校、1学年1クラスになってしまいました。中学校になってやっと2クラスになります。現状の子ども達の人数と将来の人数を考えた中で、建物の在り方について、協議を行うことになってきました。現在、布佐中学校区の保護者に投げかけております。布佐小学校と布佐中学校は、すぐ隣ですので、一緒の敷地になっても、特に支障はないと思われます。ただ、布佐南小学校は違いますので、どのようにしていくかをこれから協議するのです。東京では、中高一貫が人気です。千葉県では、県立である東葛高校でも中高一貫をスタートしました。他市でも、一体型の小中一貫教育が進んでいます。こういった事も含めて、建て替えの時にはどうするのかということ、今、話し合っているのです。教育委員会では8月頃に独自で説明会を行います。あと、市の考えとしましては、ハザードマップの改訂により、布佐小学校は浸水しないエリアですので、浸水エリアである布佐南小と布佐中学校は、建て替えしない考えでいます。これは、他の学校も同じです。今、市の税収が減ってきている中では、公共施設を維持管理していくには面積の2割カットが必要になってきています。こういったことも含めて検討していく必要があるということです。

市民：5月1日の広報で、我孫子市基本構想の話が出ていたので、読ませていただきました。若い人に我孫子に住んでもらうには、一つは交通の利便性で、成田線の関係で市も努力されているのはわかるのですが、無理であれば、あび

バスでも市バスでも構わないので、利便性を向上して欲しいと思います。やはり子育てしやすい街ということでは、あびこの学校給食はとても素晴らしいものだと思います。我孫子の給食はとても美味しいと言っています。そういうこともあって、我孫子が良いと言って、子供達も戻ってきてくれています。市長さんも自校調理方式が良いと言っているらしいので、ぜひ維持してほしいと思います。

もう一点、若い方にとって介護は重要な事です。我孫子市の介護予防政策に高齢者なんでも相談室との連携があると思いますが、市とうまくいっていないように感じます。市としては、どのようにとらえているのでしょうか。先ほど、学校を建て替えるような話がありましたが、その時はぜひ、長期を見据えてバリアフリー化も検討してほしいと思います。

健康福祉部長：介護予防の件についてですが、市では令和3年度から令和5年度にかけての3ヶ年で第8期の介護保健事業計画を策定しております。3年ごとに見直しをして、この計画の中では介護保険料も決めることになっています。介護予防についてもどのように取り組んでいくのかが含まれており、先ほど言われたヤングケアラーというのも問題になっており、こういった取り組みについても考えられております。コロナ禍の中では、中々、外出できなくなっている状況では、少しでも身近なところで体を動かしてもらったりする等の取り組みが必要になってきます。市町村単位で全体を協議する場として「第1層協議体」と各地域などの問題や課題を掘り起こす「第2層協議体」という取り組みがされております。そしてコーディネーターがそれぞれの問題点等や要望などを整理して、その中から出来ることに取り組んでいきたいと思います。しかし、コロナ禍ということで地域の方々の声を聞き取ることが出来ない状態です。その中には、先ほど言われた若い人達の問題もあると思います。先ほどのご意見については、高齢者支援課に、なんでも相談室との連携、調整を確認し、皆様にとってどのような関係が一番良いのか、もう一度整理するよう伝えます。

市長：私も学生時代、成田線を利用しました。当時に比べると成田線の本数は増えております。この状況で成田線の本数が少ないという意見は、少しがっかりいたしました。1時間に2本、朝夕は3本走っています。上野、品川には直通も出ています。おっしゃる通り、東西に細長い地形である我孫子では、西側が常磐線を利用できる地形であることもあり、子供の数が増えており、逆に東側が少なくなって来ており、市全体でも子供の数が減ってきています。JRとの交渉の中では、上野行きと品川行きは増線してくれますが、成田線の本数が増えない中では、バス便の検討をしなければなりません。昨年、試験運行を行う予定でしたが、コロナ禍によりバスの試験運行をしても電車に乗らない人がバスに乗るのかということもあって実施せず、今年実施する考えでおりますが、ただ、コロナの状況もみていかなければなりません。バス便については、布佐から天王台、あるいは我孫子まで成田線の合間の運行を計画しています。

あびバスは地域性に特化した運行ですので、それとは別であると認識してく

ださい。学校給食については、基本的に自校方式は私も教育委員会も同じ考えです。教育委員会が公表している学校給食開始の時期よりも前に、私が通っていた湖北中は学校給食でした。当時は、湖北小学校と湖北中学校が隣り合わせだったからで、親子方式であったからこそ、いち早く湖北中学校が学校給食になったのです。親子方式といっても、自校方式と変わらないのです。こういったことから、親子方式も考えから外すのではなく、検討はするけれども実際にできる所と出来ない所があるということです。我孫子市の将来を考えるといろんな考えがあるのであって、それは排除せず、検討はしますけれども、基本的には自校方式で進めていきます。その学校にとって一番良い方法を選んでいくということです。学校建替えについても、それぞれの学校で構造が違います。子供が少なくなって、高齢者施設に変えるといっても、長すぎる廊下の学校などでは、不向きです。学校は高齢者施設に切り替えるという設計はしていないので、できる所と出来ない所があるということをご理解ください。

市 民：新木小学校の通学路についてです。山のすその樹木が茂り、坂の下には泥などが溜り、とても危ない。あびバスやゴミ収集車が通りますので、子供たちが危ないので、樹木の剪定などをお願いしたいと思います。

建設部長：まずは、現場を確認させていただきます。樹木の伐採については、基本は、土地所有者さんが行うこととなります。所有権もあることですので、その点を確認した上で、要請を行いたいと思います。その上で、地権者さんの諸事情もあるでしょうから、お話を聞きながら対応は検討していきたいと思ます。

市 民：エンジョイ新木野という団体です。新木団地、新木野団地の方々の買物の手伝いや病院の送り迎え、庭の草取り等を行っておりますが、市の支援をお願いできないでしょうか。

健康福祉部長：詳しくお聞きしまして、出来ること、出来ないことを分けて、検討していきたいと思ます。

市 長：我孫子では180の自治会がある中で、高齢化率が高いというのは、何処の地区でも問題になっている中では、いろんな支援策を出していて、そこに市の財政を投入するという事は、他の部分の予算を切っても行って良いのですか。という前提がでてきます。それぞれの自治会や団体はご自分達で行っていけるという前提でスタートしている訳ですから、180の自治会全部を支援することになってしまうと、とても対応出来ません。本当に必要な支援は何なのか、ということ、きちんとお伺いしながら、そこについて支援策を検討していきたいと思ます。市では、きらめきデイサービスや市としての事業など、いろんな形でのメニューづくりの中で、市で補えないものを、それぞれの自治会や地区社協やまち協が事業展開している訳です。どのような支援ができるの

か、よくお聞ききし、お手伝いできればと思っております。